

# 青木功ジュニアクラブにゆうす

創刊号

VOL.1



## 青木功ジュニアクラブ発足にあたって

「良い子」の皆さんお元気ですか？

「青木功ジュニアクラブ」ができて、初めての会報を届けることができました。この会報は自分と皆さんをつなぐパイプのひとつであり、皆さんどうしの交流の場でもあります。今後はこの場を活用して友だちの輪をどんどん広げていけたらいいな、と思っています。

なぜ、自分がこのようなクラブを作ったかという、ひとりでも多くの子どもたちにクラブを握ってみて欲しい、ゴルフの楽しさを味わって欲しい、ゴルフを通じて何かをつかんで欲しい、と思ったからなんです。

自分は中学時代アルバイトでキャディをやっていました。他人の7番アイアンひとつ借りて練習。それが、はたから見ると熱心に見えたんだろうね。どうやってお金を作ったのか、父親が当時の給料の3ヶ月分もするクラブがある日

買ってきてくれたんです。そのときの驚きと喜びは、今思い出しても熱いものがこみ上げてきます。

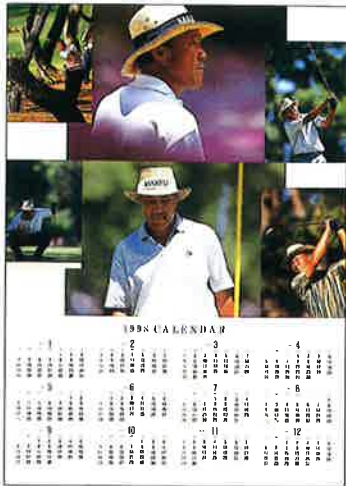
このジュニアクラブは、そこが原点なんです。皆さんと一緒にゴルフが楽しめて、皆さんの心に何か感動を与えられれば、ともに幸せと思っているんです。

この夏に初めてのジュニアキャンプを開催しました。そこで皆さんの純真な心に触れて、自分はとても感動しました。そして、ふだん忘れがちなことをたくさん教えられました。自分はまだまだシニアツアーでも頑張っていきたいので、なかなか皆さんと直接触れ合える機会は少ないかもしれませんが、一緒にゴルフを楽しみましょう。

青木 功

## 青木功モデルグッズ

### 青木 功カレンダー



定価2,000円

### 青木 功ジュニアカレンダー



定価1,200円



### ジュニアキャンプビデオ 「ぼくの先生は“世界の青木”」



定価2,000円

ご希望の方は振込用紙、又は現金書留にてお申し込み下さい

## 事務局からのお知らせ

青木功プロの長年の夢だったジュニアクラブを設立することができ、事務局一同、設立にご協力いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。

お蔭様をもちまして、第1回青木功ジュニアキャンプも成功のうちに無事開催することができ、これもひとえにボランティアの皆様方やその他大勢の方々のご協力の賜です。事務局だけでは到底成し得なかったことだと思い、感謝申し上げます。

また、このジュニアクラブ設立に賛同し、ファンドへの申し入れをいただいた、

●北芝興業株式会社



●アメリカン・エクスプレス・インターナショナルInc.

●日本ゼネラルモーターズ株式会社

●神奈川県相模原市建友会代表

高橋誠之助様

上記の方々に厚くお礼申し上げます。

さて、当ジュニアクラブもスタート

にあたり、すべて初めて手がけることばかりです。青木功プロ共々、一歩ずつ確実な形で、ジュニアの皆様のお役に立てるよう頑張るつもりであります。皆様からご意見ご要望ございましたら、ご遠慮なく申し付け下さい。

また来年4月には米国・フロリダ州に青木功プロ設計のコース『オレンジカウンティーナショナルゴルフセンター』がオープンします。ジュニアスクールも併設し、米国でも皆さんのお役に立てるように致します。

それでは次回青木功ジュニアキャンプでお会いできることを楽しみにしております。

## 青木功プロ・スケジュール

今シーズンは9月の3週まで2位は5回もあったものの優勝に手が届かなかった青木プロだが、エメラルドコースト・クラシックでついに優勝を果たした。しかも、2日目には米国シニアツアー新記録の“60”を出しての逆転優勝だ。

これで3年連続の100万ドルプレーヤー。賞金ランクも'92年26位、'93年15位、'94年13位、'95年5位、'96年4位、そして今年は3位(10月31日現在)と年々ランクアップしてきている。毎年レギュラーツアーから強豪が続々と参戦してくるシニアツアー界でのこの大活躍は、まさに「立派」の一歩だ。

その青木プロが11月27日～30日に千葉県の高滝CCで行われる日本シニアオープンに大会4連覇をかけて挑戦する。ぜひとも、みんなで応援に行こう。





# 青木功ジュニアクラブの活動について



青木功プロが長年準備してきました青木功ジュニアクラブがやっとスタートしました。

青木功プロが以前より、ジュニアゴルファーについて考えていたことは、ゴルフという素晴らしいスポーツを、一人でも多くの子供達に、伝えたいということでした。そもそもゴルフは特定の人達のスポーツではありません。またプロを目指す人達だけのためのスポーツでもありません。この世に存在するあらゆるスポーツの中で最も歴史の古いスポーツです。ヨーロッパやアメリカでは、日本でよく見られたように道端でキャッチボールをするような感覚で、ゴルフを楽しんでいます。大人も子供も一緒になって楽しんでいるのです。

そして、青木功プロが『初めてゴルフボールを打った時の感激は、今でも忘れない』とよく言います。またいつも『あの時の感触を子供達に味わってもらいたいな』とも言います。

だから青木功プロのジュニアゴルファーへの願いは、このゴルフという楽しいスポーツを純粋に味わってもらいた

ということなのです。

その青木プロの思いに従って、入会条件は“良い子”ということになるのです。つまり、楽しいゴルフというスポーツを素直に受け入れてくれるジュニアということです。また毎年、青木プロの時間の許す限り、ジュニアキャンプを開催する予定です。

青木プロのジュニアキャンプでの目的は、やはり青木プロが直接ジュニアに自分のゴルフのイメージを伝えることです。他の方に担当していただく方法もあるのですが、青木プロの長いゴルフ生活の体験や、考え方をやはり直に子供達に伝えることが大事だ、という意志を尊重したいという願いからです。そのため、小人数の限定されたキャンプとなりますが、このスタイルはしばらく続けたいと思います。

青木プロが米国シニアツアーに参加している間は、厳しいスケジュールとなりますが、ジュニアの皆さんのために設立したこのクラブを、長く発展させるよう調整する予定でおります。

現在、次回のイベントをプランニング中です。今後共未長くこの青木功ジュニアクラブを応援していただくよう宜しくお願い申し上げます。



## 青木プロと我が子供達との出会い

「ええおっちゃんやなあ。」

一人の児童がつぶやきました。

私の住む奈良で第4回日本シニアオープンゴルフ選手権が開かれていた、1994年11月25日のことです。

公立小学校で週1回のゴルフの授業をしている私はトーナメント会場へ出向きました。「教え子達に会っていただけませんか?」と、突然の「アポ無し直訴」をしたところ、青木プロは快諾。すぐに学校のそばの練習場に足を運んでくださいました。

子ども達のスイングを見ていただいたり、お話をさせていただいたりしたあと、車で帰られるのを見送っていた時に児童の口から自然と出たことばが「ええおっちゃん

やなあ」でした。

児童にとって青木プロはとても遠い存在で、「なんだかすごい人らしい」程度の認識でしかありませんでしたが、ほんの1時間足らず接していただいた「ナマ」の青木プロから感じ取ったのでしょう。

あれから3年。この夏、ジュニアキャンプにスタッフとして参加させていただき、29名の全国から集まった子ども達と、ゴルフを通して楽しく触れ合うことができました。

全英オープンからの長旅直後にもかかわらず、疲れた表情ひとつ見せずにやさしくにこやかに子ども達と接しておられる青木プロは、勝負師「世界のアオキ」ではなく、ほんとうにやさしい「おっちゃん」(失礼!)

でした。

キャンプが終わってみんなとお別れする時、

「みんなが去っていくの、いやんなっちゃったよ……」

と言いかけたとたん、青木プロは涙で言葉につまられました。

このとき、3年前のあの児童の言葉が私の頭にすぐに浮かんできました。

ジュニアキャンプに参加した子ども達も、きっと思っていたに違いありません。私も確信しました。

「青木プロは、ええおっちゃんやなあ。」

(奈良市立鼓阪小学校教諭 辻 正光)

# 第1回 青木功ジュニアキャンプ・オークガーデン

## 平成9年7月24、25日

80名の応募者から抽選で選ばれた30名の会員を集めて初めてのジュニアキャンプがオークガーデンGCで行われた。「まったく未経験の子どもたちに、ゴルフの面白さから入るような指導を」という方針で、まず初日は、5人ずつ6チームに分かれてドライビングレンジ、練習グリーン、アプローチなどに分散し、時間を区切ってローテーションを組んで回った。

2日目は3ホールを使ってのラウンドレッスン。「体の軸とインパクト時に集中すること」を心がけた子どもの放

つショットは、周囲がビックリするほどよく飛んだ。

初日の夜はバーベキュー大会やスイカ割りなどもあって、子どもたち以上に青木プロ自身が楽しんでた。

また、教える立場の青木プロが「逆に子どもたちに教えられることが多かった」と語るように、大人も子どもも得るもの多かった2日間だった。



僕は青木プロのジュニアキャンプで今までで最高の体験が出来たと思っています。僕はアフリカのケニアで生まれてずっと住んでいます。今回はケニアでは考えられない体験が出来ました。青木さんのレッスンはバターレッスンから始まりました。僕は青木さんに「ボールを見て」と言われて基本が大切なのだと思います。僕はボールを見る以外にフェースの合わせ方やフォローのことも教えてもらい、基本の大切さに驚きました。ケニアでは練習はマットの上ではなく草の上で打ちます。夜、夕食のあとスイカ割りをしたのですが、あんな大人気でやったのは初めてだったので楽しかったです。僕はスイカ割りはあまりやったことがなかったのよかったです。楽しい夜でした。二日目、まずレンジで青木さんにレッスンしてもらい、そこでも基本を注意されていろいろテクニカルな事より基本が大切だと思知らされました。青木さんに習ったあとはコースに出て1ホールみても良かったのですが、そこで僕は1打目をOB、そして青木さんにワンポイントレッスンを受けたら、打ったボールはパーフェクトでした。僕は今回の青木プロジェクトに参加して、ゴルフがもっともっと楽しくなりました。小林 走(15歳)

私は、初めてゴルフコースに出たことと青木プロに会えたことが夏休み一番の思い出になりました。そして、このキャンプで私は少し積極的になれたこともうれしかったです。いつもは自分から友達を作るのががててでしたが、このキャンプでは自分から話しかけて、参加した5人の女の子と仲良くなりました。これからも教えてもらったことを忘れずに、そしてゴルフを楽しくできるようにがんばりたいと思います。馬場 笑子(10歳)



僕の夢は、世界のAokiプロにレッスンして頂くことでした。この夢がこんなに早く実現するとは思っていませんでした。出発前は不安と期待で胸がいっぱいでした。でも、東京駅に集合して全国の友達に会って、いろいろな話をしたら、不安は消えてしまいました。自分のスイングがうまくいかととても心配でしたが、青木プロが「ウーン、なかなかいいスイングしてるね」と言ってくれ、この言葉は僕の一生の宝物になりました。全国のゴルフ好きのみんなと楽しくプレーでき、コーチの方やスタッフのみなさんに感謝の気持ちいっぱいです。Aokiプロが最後に流した一粒の涙を一生忘れません。あの涙はAokiプロのゴルフ人生だったと思います。そして今、Aokiプロの言葉を思い出しながら「賢者のゴルフ」を読んでいます。このキャンプの中で準備や応援してくれた家族に、感謝の気持ちでいっぱいです。世界のAokiプロに会えた事で、僕の夢は益々広がりました。「世界のリョーチン」と言われるように、がんばりたいです。世界のAokiプロ、ほんとうにありがとうございます。中村 亮太(12歳)

学校よりこのキャンプのほうが楽しかったです。なぜかと言うと、学校では知ってる友達ばかりで、算数や国語もいっぱいやるけど、このキャンプでは学校のことは忘れられて、好きなゴルフだけを世界の青木プロとできたからです。これからも青木プロに教えてもらったことを守って練習をして、うまくなりしたいと思います。日原 篤志(10歳)

お母さんが「ジュニアキャンプに申し込もうよ」と言ってきたとき、ほくほくやだなーと思った。一番の理由は友達か一人もいないから。それにまだ始めたばかりなので、みんなうまい人がくるんだろうなと思ったからだ。でも、いざいっただけは最初はきんちょうしてずーっとだまっていたけど、途中から班にとけこんでみんなと仲良くなりました。それにみんなにわるいけど、ゴルフのうまい人も少しいたけど、みんなへたっぴばかりで自分に自信がきました。青木プロはやさしくて、どこかのお父さんみたいで、むぎわらぼうしがにあいそうな感じでした。中沢 勇二(14歳)

青木さんのジュニアクラブに行ってきたことは、ゴルフ友達が出来たこと、ゴルフが上手になったことなど。そして、あいさつをきちんと言うこと、朝早く起きれるようになったことなど、いろいろです。島田 南平(12歳)